

農林水産委員会会議記録（第4号）

令和8年 3月12日

福島県議会

1 日時

令和8年 3月12日（木曜）

午前 10時58分 開議

午前 11時49分 散会

2 場所

農林水産委員会室

3 会議に付した事件

別添「議案付託表」（第1号に添付）のとおり

4 出席委員

委員長	鈴木 優 樹	副委員長	山 内 長
委員	太 田 光 秋	委員	三 瓶 正 栄
委員	三 村 博 隆	委員	吉 田 誠
委員	誉 田 憲 孝		

5 議事の経過概要

（午前 10時58分 開議）

鈴木優樹委員長

ただいま出席委員が定足数に達しているので、これより農林水産委員会を開く。

これより、一般的事項に対する質問に入るが、この際、農林企画課長より発言を求められているため、これを許す。

農林企画課長

（別紙「福島県農林水産業振興計画見直しの概要」により説明）

鈴木優樹委員長

ただいまの説明の内容も含め、質問のある方は発言願う。

三瓶正栄委員

GAP 認証取得促進の予算が計上されており、郡山市にてGAP 推進協議会が開催されたところであるが、令和7年12月現在の取得数は403件であり、20件が新規取得した一方、37件が更新を辞退したとのことであった。県としてはこの結果をどう受け止めているのか。

環境保全農業課長

GAP 取得数の減少について、更新を辞退した理由は、高齢化による離農、事務負担の増加、取引先からGAP 認証商品の要望がないことなどであった。GAP 認証拡大に向けては、認証に係る費用の支援、農林事務所や県内に配置したGAP 推進員と共にJAの団体認証を継続するほか、経営改善効果が見込めることも判明しているため、農業法人等にも積極的に推進していく。

また、GAP 認証拡大には出口対策が重要と考える。JAグループが実施しているGAP 認証商品と流通事業者等のマッチングを行うGAP 交流会の経費補助や、大手量販店、コンビニチェーン等においてもフェアを拡大し、事業者等のマッチングを県として実施し、消費者への理解促進を図りたい。

三瓶正栄委員

本県の農作物は大変おいしく、好評であるため、ブランド力の向上や販路拡大が重要と思うが、どうか。

環境保全農業課長

販路拡大については、JAグループや大手事業者等とマッチングを進めたいと考えている。ブランド力向上については、消費者の認知度向上が重要であるため、様々な機会を捉えて周知していきたい。

農産物流通課長

2月に首都圏において、「ふくしまプライド。」食の交流会という商談会を開催し、知事によるトップセールスを行ったところである。当課においても、量販店やコンビニチェーン等との連携を支援し、消費者の認知度向上、喫食機会の確保に取り組んでいく。

三瓶正栄委員

次に、気候変動における農作物の対策について聞く。気候変動影響評価報告書には、農林水産業への影響について記載がある。乳牛については、夏季の高温による影響を受けやすく、乳量、乳成分、繁殖率が低下しているとのことである。地元の

酪農家からも相談を受けており、畜産業において中長期的な観点から夏場の高温対策は必要であると思うが、どうか。

畜産課長

畜産業への暑熱による対する影響は大きくなっている。今までは各酪農家が遮光ネットや扇風機等を用いて対策してきたが、次年度は高温対策の予算を計上している。畜舎の屋根に白色の塗料を塗ることで、平均気温が5度程度下がるとの報告もあるため、このような取組を進めていきたい。

三瓶正栄委員

本県の令和6年度における乳牛の飼養戸数は209戸であり、平成2年の2,080戸の約10分の1であるが、県として酪農家の確保、育成にどう取り組むのか。

畜産課長

酪農家は、震災の影響、高齢化や後継者不足等を理由に減少傾向にある。後継者の確保対策として、全日本ホルスタイン共進会においてジュニア部門を設けているほか、研修会や情報交換会を実施しているところである。加えて、毎日行う搾乳等についても酪農ヘルパー等を活用してもらうことで、省力化を支援していきたい。

また、酪農家への新規参入には、牛舎や機械、牛の調達など参入までの費用が莫大で、ハードルが高いことが課題であるため、大規模な酪農家での雇用就農、廃業する酪農家の施設継承などを行い、初期投資を軽減し、酪農家の確保、育成に取り組んでいく。

三瓶正栄委員

今年4月に浪江町において大規模酪農施設がオープンするが、人口が減少している中、生産性を高めて効率的な経営を行うことが重要と思うが、どうか。

畜産課長

浪江町の復興牧場は非常に大規模であり、労働時間の削減に向け、搾乳ロボット、ふん尿や餌を回収するロボットなど先進的な機械を導入し、作業の効率化を図っている。さらに、乳量、乳質の向上、経営の安定化のため、牛1頭1頭の能力を判定する牛群検定、ゲノミック評価を活用した改良を支援していく。

三瓶正栄委員

次に、渇水の備えについて質問する。農繁期に入るに当たり農業用水は非常に重要であるが、報道のとおり降水量が平年の半分程度と非常に少ない状況である。安

定した農業生産を維持するためには、ため池等を含め渇水対策が重要な課題と思うが、どうか。

農地管理課長

県内における3月1日時点の農業用ダムの貯水状況は60.8%であり、平年と比較すると102%程度であるため、平年と同等の農業用水が確保されている。稲作は4月下旬頃からスタートするが、それまでの降水量が重要であるため、気象状況にも注視していく。

渇水対策については、昨年も水不足だったため、農業用ダムの貯水率を上げることが重要である。稲の生育状況に応じて水量を調整することとなるため、用水管理を徹底していきたい。

三瓶正栄委員

最後に、農業水利施設についてであるが、近年、老朽化が進んでいるとの声を聞く。人口減少が進む中で、施設の維持管理は大変厳しいものがあると思うが、施設を長く大事に使うことは重要だと考える。県として、農業水利施設の長寿命化対策についてどのように考えているのか。

農地管理課長

委員指摘のとおり、農業水利施設等の老朽化は進行しているため、確実な定期点検を行い、小さな不具合でも早期発見し、長寿命化を図っていく必要がある。しかし、改良区においても人手不足が問題となっているため、研修会の開催や農林事務所職員の立会いなどによる技術指導を行い、少人数でも効率的な点検ができるよう支援することで、施設の長寿命化を図っていく。

三村博隆委員

前定例会においても質問したが、トマト黄化葉巻病についてである。市町村ではネットや耐性のある苗の購入補助等の財政的な支援をしており、県では技術的な支援を行っているとのことであったが、現状を聞く。

園芸課長

トマト黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミの調査を行っており、各地方において越冬が確認されている。

また、昨年の夏秋作型で特に被害が大きかった県南地方において発生状況等の調査を行ったところ、冬春作型についてもタバココナジラミの発生が確認されている。

生産者は夏秋作型の栽培も予定していることから、徹底した防除を指導している。

三村博隆委員

様々な対策をしていることは理解している。発生が確認されていない地域であっても、家庭菜園等から発生する可能性もあるため、新年度に向けた新たな取組があれば聞く。

園芸課長

引き続き、トマト生産者の個別巡回やＪＡ等との連携を密にし、発生動向の状況把握に努め、指導助言を行っていく。また、令和７年産の夏秋作型でタバココナジラミが集中発生した地域においては、個別ではなく地域が一体となり防除することが重要である。生産者組織がＪＡ等と連携し、防除技術を実証するなど地域一丸となり取り組むことを支援する県の補助事業があるため、活用を促していきたい。

三村博隆委員

原因となる虫が死滅する対策や耐性のある品種を導入するにしても、地域が一体となり進めていかなければ意味がないため、引き続き対応を願う。

誉田憲孝委員

主食用米の作付等の生産調整をめぐり生産者から様々な声が上がっていると思うが、先日、秋田県知事から現在の米政策の在り方について問題提起ともとれる発言があったと承知している。報道によると、減反政策は廃止されているが、実際には需給調整の仕組みが続いており、主食用米の作付面積が抑えられているため、近年の米不足や価格上昇に影響しているのではないかとのことであった。

本県における、主食用米の需給状況等をどのように把握しているのか。

水田畑作課長

水稻の生産については、毎年、国が示す需給状況に関する指標を公表している。本県においても、県、ＪＡグループ及び米の流通関係者で構成する協議会において、生産の目安を定め、各市町村の地域協議会に通知している。

先日、令和８年産米の意向調査結果が公表されたが、本県はやや減となっている。当該意向調査は各市町村の地域協議会への聞き取り結果をまとめたものであり、今後、農業者から提出される営農計画によっては、若干の変動が予想される。

誉田憲孝委員

次に、桃の取引価格について、１kg当たり484円から令和12年には１kg当たり917

円とする目標を掲げているが、取引価格の上昇だけでなくブランド力の向上も重要と思う。どのような取組で目標を達成していくのか。

園芸課長

福島県農林水産業振興計画中の指標として、桃の販売単価の目標を挙げている。当該振興計画を実現するため、令和8年度から5年間を期間とする第2期福島県園芸振興プロジェクトを策定しており、プロジェクト内でも桃は主力品種の1つと位置づけている。販売単価の向上に向けた取組について、大きく3つに分けて説明する。

1つ目は、品種構成の改善による長期安定生産供給耐性の構築である。桃の出荷が始まる6月下旬からお盆時期にかけて、しっかりと棚を確保することが重要である。現在の作付面積は「あかつき」に偏っているため、お盆時期まで安定的に出荷できる体制を整えることが、単価を向上させる上で重要と考える。

2つ目は、本県産の桃のブランドといえば「あかつき」であるが、ブランド力を高めるために県のオリジナル品種の作付拡大を図りたいと考える。早生系の品種の代表的なものは、「はつひめ」や「ふくあかり」があるが、これらの本県オリジナル品種の作付を拡大し、他県にはない品種をアピールしていきたい。

3つ目は、多様な販売形態を展開することである。桃の生産日本一といえば山梨県であり、高額な単価を設定していることについて調査したところ、高品質のものを百貨店や贈答ギフトとして取り扱う割合を高めているとのことであった。

これらの3点にしっかり取り組むことにより、目標とする単価を確保していきたい。

誉田憲孝委員

地元の仲間からも、高付加価値化を図るためにパッケージを変更したところ、高いものから売れたとの話を聞いた。販売方法の工夫はとても重要と思うため、引き続き取り組んでほしい。

次に、AIを活用した肉質の評価システムについて、詳細を聞く。

畜産課長

人でいうエコー検査のようなものを馬に用いて、肉質を撮影し、その画像をAIで判断するものである。将来の肉質を判断できるため、生育する際の計画を立てられることが利点である。この取組は技術的に確立されているため、酪農家に広く周

知していく。

菅田憲孝委員

最後に「福粕花」について、２月に帝国ホテルにて特別試食会があり大変好評であったと聞いているが、生産や流通の現状を聞く。

畜産課長

委員指摘のとおり大変好評であり、当初の予定を上回る状況で生産が進んでいる。令和７年度は188頭を出荷しており、そのうち約７割の130頭程度が「福粕花」として流通している。次年度も生産拡大や量販店、飲食店でのフェアを開催し、まずは県民においしさを体感してもらうとともに、流通事業者向けの産地ツアーを実施し、生産及び認知度の拡大を図っていく。

鈴木優樹委員長

ほかにないか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

鈴木優樹委員長

なければ、以上で一般的事項に対する質問を終わる。

本日は以上で委員会を終わる。

明３月13日は現地調査を行うため、午前９時20分までに本庁舎東玄関に集合願う。

３月18日は総括審査会終了後に委員会を開く。

審査日程は、議案の採決についてである。

これをもって散会する。

（午前 １１時４９分 散会）